

教 員 個 人 調 書

履 歴 書					
フリガナ	シンケン タロウ	性別	男	生年月日(年齢)	昭和 32 年 7 月 5 日 (満 57 歳)
氏 名	進 研 太 郎				
現 住 所	大阪市北区堂島 2-4-27 新藤田ビル				
連 絡 先	電話番号 e-mail				
学 歴					
年 月	事 項				
昭和 46 年 4 月	後楽園大学社会学部社会学科入学				
昭和 50 年 3 月	後楽園大学社会学部社会学科卒業 中学校教諭一級普通免許（社会）昭和 50 中一級普 23 号（文京区教育委員会） 高等学校教諭二級普通免許（地理歴史）昭和 50 高二級普 23 号（文京区教育委員会）				
昭和 50 年 4 月	飯田橋大学大学院社会学研究科社会学専攻（修士課程）入学				
昭和 52 年 3 月	飯田橋大学大学院社会学研究科社会学専攻（修士課程）修了 社会学修士 第 123 号 「修士論文題目：〇〇〇に関する社会学的考察」				
昭和 52 年 4 月	神楽坂大学大学院教育学研究科教育学専攻（博士課程）入学				
昭和 53 年 9 月	米国カリフォルニア大学バークレー 教育大学院（University of California, Berkeley Graduate School of Education）留学（昭和 54 年 8 月まで）				
昭和 58 年 3 月	神楽坂大学大学院教育研究科教育学専攻（博士課程）単位取得後退学				
平成 4 年 2 月	博士（教育学）（神楽坂大学第 12 号） 「博士論文題目：〇〇〇に関する比較教育学研究」				
職 歴					
年 月	事 項				
昭和 58 年 4 月	神楽坂大学大学院教育学研究科教育学専攻研究生（昭和 59 年 3 月まで）				
昭和 59 年 4 月	後楽園大学社会学部社会学科科助手（昭和 61 年 3 月まで）				
昭和 61 年 4 月	（株）大学広報研究所 高等教育研究部 副主任研究員（平成元年 3 月まで）				
平成元年 4 月	神楽坂大学教育学部教育学科専任講師 「教育社会学」「比較教育学」「基礎演習」「専門演習」（平成 4 年 3 月まで）				
平成 2 年 4 月	神楽坂大学教育学部教育学科専任講師「卒業論文演習」（平成 4 年 3 月まで）				
平成 2 年 4 月	後楽園大学社会学部社会学科非常勤講師「教育社会学」（現在に至る）				
平成 4 年 4 月	神楽坂大学教育学部教育学科助教授 「比較教育学」「基礎演習」「専門演習」「卒業論文演習」（平成 13 年 3 月まで）				
平成 12 年 8 月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において 虎ノ門大学教育学部教育学科教授「教育社会学」「教育社会学演習」「卒業論文指導演習」の資格有りと判定				
平成 13 年 4 月	虎ノ門大学教育学部教育学科教授 「教育社会学」「教育社会学演習」「卒業論文指導演習」（現在に至る）				
平成 13 年 7 月	（株）大学広報研究所 高等教育研究部 特別研究員（現在に至る） 虎ノ門大学社会学部社会学科兼任教授「教育社会学」（現在に至る）				
平成 17 年 8 月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において虎ノ門大学大学院教育学研究科比較教育学専攻（修士課程）教授「比較高等教育論」可、「教育学研究指導」M④の資格有りと判定				
平成 18 年 4 月	虎ノ門大学大学院教育学研究科比較教育学専攻（修士課程）教授 「比較高等教育論」「教育学研究指導」（現在に至る）				

上記は和暦になっていますが、書類は西暦でご記入ください

学会及び社会における活動等			
現在所属している学会		日本教育社会学会、日本高等教育学会	
年	月	事	項
昭和 59 年 4 月		「学会活動」 日本教育社会学会入会（現在に至る）	
平成 10 年 4 月		日本高等教育学会入会（現在に至る）	
平成 18 年 4 月		日本高等教育学会理事（現在に至る）	
平成 19 年 9 月		日本高等教育学会第〇〇回大会実行委員会 委員長	
		「社会活動」	
平成 18 年 4 月		文部科学省 中央教育審議会委員（現在に至る）	
賞 罰			
年	月	事	項
平成〇〇年〇月		日本〇〇学会〇〇賞（〇〇〇〇〇〇〇の功績について）	
現 在 の 職 務 の 状 況			
勤 務 先	職 名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
虎ノ門大学	教 授 兼 担 教 授	教育学部教育学科	教育社会学、教育社会学演習、卒業論文指導演習
		社会学部社会学科	教育社会学
虎ノ門大学大学院	教 授	教育学研究科 比較教育学専攻（修士課程）	比較高等教育論、教育学研究指導
後楽園大学	非 常 勤 講 師	社会学部社会学科	教育社会学
（株）大学広報 研究所	特 別 研究員	高等教育研究部	大学設置認可に関する研究（非常勤研究員）
上記のとおり相違ありません。			
年 月 日			
氏 名			印

教 育 研 究 業 績 書		
年 月 日		
氏 名 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学、社会学	教育社会学、高等教育論、大学経営	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
① メーリングリストを活用した授業のサポート	平成〇年〇月～ 平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科の専門科目「〇〇論」は、学内 LAN とインターネットを経由して教育研究に必要な情報の取得や情報提供について学ぶものである。この授業の受講者のためのメーリングリストを開設し、教員と受講者全員を登録し、これを用いて、情報提供、質問、回答や指導を行う。このメリットとして、以下のことがあげられる。 ・学習者が課外の学習を行う際に出た疑問点やトラブルに対し、次の授業まで待たずに質問し、相談し、解決することができる。 ・初心者共通のトラブルとその解決の経験の共有によって、他の受講者は同じトラブルを経験しないですむ。 ・受講者どうしの教えあいの有効性 ・所属機関内のインフォーマルな閉じた電子社会で、技術的な点だけでなく、電子社会のマナーやエチケットを身につける。
② 予習レポートによる動機づけと授業設計	平成〇年〇月～ 平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科の専門科目「〇〇論」(3 年生 75 人クラス)において実践した。毎時限の最後に、レポート課題を含んだ次回講義内容の解説資料を渡し、次回の講義の前日の朝までに「予習レポート」を提出させる。レポートは正誤ではなく問題への取り組みの真摯さの観点から 3 段階で評価し、講義の冒頭で返却する。これによって学生は目的を持って授業に参加でき、教員は学生の理解度等に配慮した授業設計を行うことができる。この予習レポートを課すグループと課さないグループに分け、交代で授業及び試験を行った試行結果からみて、予習レポートは学生にとって具体的な課題解決に関わるものとして講義を受け止める手がかりとなっており、学力にもつながる効果を持つ可能性が示唆される。

③ オフィスアワーの活用	平成○年○月～ 平成○年○月	○○大学○○学部○○学科の講義科目「○○論」(教養課程 1、2 年次配当、4 単位)において実践した。本講義では○○を理解させることを最大の目的とした。文科系学生を対象とした自然科学系の科目であることを鑑み、学生の理解度の把握に最大限勤めたが、オフィスアワーの活用し、授業時間外に希望する学生と自由な雰囲気のもとディスカッションを行った。それによって学生の理解度や問題意識、説明の不十分な点を把握し、講義に反映させた。補足説明や質問への説明は、個別でなく多くの学生に聞かせることにより緊張と集中力を持続させる効果があり、その結果、学生の理解度、満足度が予想より早く目標レベルに達した。
2 作成した教科書、教材 ① ●●学実習画像集 ② 講義用補助教材	平成○年○月～ 平成○年○月 平成○年○月～ 現在に至る	●●大学●●学部●●学科の教授として担当の「●●学実習」(専門科目、●年次配当、半期、必修●単位)で使用したスライドを CCD カメラで撮影してコンピュータ上で供覧できるようにした。この画像集は実習中、自由に学生が供覧できるようにし、希望者にはコピーを許可した。この画像集と教科書により、学生は自宅で使用する標本を見ながら復習することが可能となった。 ●●大学●●学部●●学科の教授として担当の「●●●●●」(専門科目、●年次配当、半期、必修●単位)において使用している。受講生には、留学生も含まれ、受講生の母語は、3 カ国語にわたる国際色豊かなクラス編成となっている。そのため、講義の要点を理解できるよう配慮し、アウトラインを 1 回ごとに作成し、そのプリントを毎回の授業で配布している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ① ●●大学●●学部教員選考委員会による評価 ② ○○大学学生による授業評価アンケート結果における評価 ③ 学長による評価	平成○年○月○日 平成○年○月○日 平成○年○月○日	●●大学●●学部の教員選考委員会において、全国公募による応募者の中から、○○○○の教育研究上の能力を認められた結果、教授会で承認され、「○○」担当の教授として就任した。 ○○大学において毎年実施されている学生による授業評価アンケートによると、本人が担当の「○○論」は、総合評価で○点と高い評価を得ており、学生の満足度が高い結果となっている。 当該教員は、●●株式会社において国内営業、人事教育、海外広報に関する業務を中心として●年にわたり勤務し、その後、●●短期大学秘書科の経営分野の専任教員として●年の教育歴を有している。 永年にわたる●●株式会社におけるビジネスの経験や国内外でのマネジメント体験を活かして、ビジネス・マネジメント分野の入門教育に関する授業科目を担当し、初心者の方の経営学分野に対する理解を助けるために、実践的な内容の授業を展開しており、学生の授業評価は非常に高い。 豊富な実務経験から、現代のビジネス社会が大学の卒業生に求めているものを的確に把握・分析することができ、それを基礎として、●●学部の

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ① 中学校教諭一級普通免許 (社会) ② 高等学校教諭二級普通免許 (地理歴史) ③ 社会学修士 ④ 博士 (教育学)	昭和 50 年 3 月 昭和 50 年 3 月 昭和 52 年 3 月 平成 4 年 2 月	昭和 50 中一級普 23 号 (文京区教育委員会) 昭和 50 高一級普 23 号 (文京区教育委員会) 飯田橋大学 第 123 号 「修士論文題目：〇〇〇に関する社会学的考察」 神楽坂大学 第 12 号 「博士論文題目：〇〇〇に関する比較教育学研究」
2 特許等 ① 〇〇システム 登録番号 特許第●号	平成〇年〇月	〇〇〇〇〇〇〇〇
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ① ●●株式会社●●研究所に おける●●●●の研究開発 ② 株式会社〇〇〇〇研究所 〇〇〇〇研究室 ③ ●●大学 「〇〇に関する研究」	昭和〇年〇月～ 平成〇年〇月 平成〇年〇月～ 〇年〇月 昭和〇年〇月～ 平成〇年〇月	●●株式会社●●研究所における研究管理職として、●●●●の研究開発を担当し、研究員及び協力メーカーを指導して、●●●●技術の●●●●●部分を改良し、所期のコストダウンと性能向上を達成し、数千万個の製品を世に送り出した。この成果により●●賞を受けた。また、このコストダウンのために国際競争力が生まれ、国内のみならず米国などにも大量に輸出され、特許実施報奨金の金額が●●で1位になった。 〇〇主任として、〇年間、〇〇の設計及び統括を行い、延べ〇〇〇〇件の事業に参画した。(以下、職務内容について記入) 本研究は、(以下、研究内容と本人担当部分について記入) 共同研究者 〇〇、〇〇、〇〇
4 その他 ① ●●県身体拘束解消推進会 議長としての活動	平成〇年〇月～ 現在に至る	●●県が介護保健施設の身体拘束解消を推進するための国のモデル事業の委託をうけ平成●年度より開始した事業の会長として、推進会議の運営および現場からの相談等の活動を行っている。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(その他) 「翻 訳」 1 原著者 邦訳表題	共 著	昭和○年○月	○○○○出版社	原書名：○○○○○○○○○ ○○○○・・・ (200 字程度以上) ・・・・・・・・○○○○ A○判 全○頁 本人担当部分：○○○○○○○○ P.○～P.○ 監修：○○○○ 共訳者：○○○○、○○○○、○○○、 ○○○○、 ○○○○、○○○○、○○○
2 ○○○	単 著	昭和○年○月	○○○○出版会	原書名：○○○○○○○○○ ○○○○・・・ (200 字程度以上) ・・・・・・・・○○○○ A○判 全○頁
「報告書」 1 ○○○○○○○○○	共 著	昭和○○年 ○○月	昭和○○年度 文部科学省 科学研究費補助 金 ○○研究(B)	○○○○・・・ (200 字程度以上) ・・・・・・・・○○○○ 本人担当部分：○○○○○○○○ 共同研究：○○○○、○○○○、○○○ ○、○○○○、○○○○、○○○○、○ ○○○
2 △△△△△△△	単 著	昭和○○年○ ○○月	昭和○○年度 ○○県による受 託研究	○○○○・・・ (200 字程度以上) ・・・・・・・・○○○○ A○判 全○頁
「学会発表」 1 ○○○○○○○○○	—	昭和○年○月	○○学会第○回 大会 (於○○大学)	○○○○・・・ (200 字程度以上) ・・・・・・・・○○○○

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
2 ●●●●	一	昭和○年○月	○○学会第○回 大会 (於○○大学)	本人担当部分：○○○○○○○○ 共同発表者：○○○○、○○○○、○○ ○○、<u>○○○○</u>、○○○○、○○○○、 ○○○○ ○○○○・・・ (200 字程度以上) ・・・・○○○○